

講義名	経営戦略論B			授業形態	
担当教員	森口 文博	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
 ビジネスの現場では、あらゆる課題が複雑に入り組んでおり、経営の意思決定は一筋縄にはいきません。 ・ただし、ビジネスを成功に導くために必要となる型やパターンがあり、上手に活用することにより、的確な意思決定を行うことが可能となります。 ・本講義では、基本的な経営戦略にまつわる理論や戦略分析のフレームワークを紹介し、企業の事例を通じて戦略の分析・提案の方法について学びます。 ・本講義の範囲は、経営戦略のうち全体（企業）戦略について学びます。 ・すなわち、企業全体のあるべき姿や方向性を意思決定し、行動に移すために必要な考え方を学びます。 ※本講義（競争）戦略については、経営戦略論Aに取り扱います。 ・組織間等の企業経営に関連する領域にも触れながら、企業全体の方向性を構想し、自ら戦略立案を行える基本的な思考力の構築に主眼を置きます。

到達目標
 ・学生は、経営戦略のうち、全社戦略（企業戦略）の基礎的な分析モデルやフレームワークの活用方法を習得する。 ・学生は、上記分析モデルやフレームワークを活用して、企業全体の経営環境を俯瞰し、企業のあるべき方向性へと導くための的確な戦略的意思決定を行う思考力を習得する。

提出課題
 ・毎回講義の最後に簡単な課題（プラクティス）を出します。 ・予習・復習を行い、講義で学んだことを確実に自分で活用できるように努めてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 ・課題（プラクティス）の内容は学生のみさんの意見や回答の理由を問うもので、シンプルで負担にならないものを予定しています。 ・提出いただいた課題は、次の講義の中で解説を行います。 ・また、受講生からの質問をメールにて受け付けます。 ・受け付けたメールについて、他の受講生にもフィードバックした方がよいと判断した場合は、次の講義の中で紹介し、解説します。

評価の基準
 ・期末試験の成績：60％ ・毎回の課題提出：40％

履修にあたっての注意・助言他
 ・「もし、自身があの企業の経営者だったら・・・」と当事者になったつもりで、その企業の経営戦略を考えてみましょう。 ・講義で学ぶ経営戦略にまつわる理論や戦略分析のフレームワークに関する理解が深まります。 ・自身が疑問に思うことは、他の受講生も疑問に思っている可能性が高いです。 ・よって、疑問点はそのままにせず、積極的に質問・発言してください。 ・他の受講生の進捗となる行為は退席を命じることがありますので、留意ください。

教科書
 ・ベージック＋ 経営戦略。井上達彦/中川功一/川瀬真紀中央経済社26409784502325014

参考図書
 ・Iからの戦略論。嶋口亮輝/内田和成/黒岩健一郎碩学会26409784502167416

その他
 ・毎回、講師作成のレジュメをLISにアップロードします。 ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて説明します。 ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画
 1. 方向：イントロダクション【経営戦略とは？】 2. 理念：フィロソフィー、ビジョン、ミッション【経営戦略立案の土台】（担当教員作成資料による講義） 3. 領域：事業ドメイン【顧客価値】（参考書：第3章） 4. 全体：ロードマップ【全社戦略、多角化、組織アイデンティ】（教科書第15章） 5. 配分：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント【複数事業の最適な資源配分】（参考書第10章） 6. 組織：シナジー【範囲の経路】（教科書第16章） 7. 戦略：ハンタダー【競争優位、組織間関係、取引コスト】（教科書第17章） 8. 統合：M&A【企業の合併と買収】（担当教員作成資料による講義） 9. 社会：ソーシャル【社会的企業、CSV、共感、顧客価値】（教科書第18章） 10. 過程：ライフサイクル【キヤズム・ビッグバンティスラプション】（担当教員作成資料による講義） 11. 成長：企業の寿命【ベンチャー企業と長寿企業の経営戦略比較】（担当教員作成資料による講義） 12. 国際化：インターナショナル【海外進出と知識移転】（担当教員作成資料による講義） 13. 向対：構築と変化【断続事業と既存事業の育て方】（担当教員作成資料による講義） 14. 出口戦略：エグジット【正・負両方の出口とその意思決定】（担当教員作成資料による講義） 15. 分離：カーブアウト【事業の切り離し】（担当教員作成資料による講義） ・受講生とのインタラクションを交えながら、各回の講義のキーワードにまつわる時事も取り入れて講義を行います。 ・講師が各回の講義のテーマに関する説明・解説を行います。 ・毎回、講義内容に関する課題（プラクティス）に取り組んでいただき、次回の講義の冒頭で課題のフィードバックを行います。

授業形態（アクティブ・ラーニング）
 ア：PBL（課題解決型学習）イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベートエ：グループワーク オ：プレゼンテーションカ：実習、フィールドワーク キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 予習：各回の講義に該当する座を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。 ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りとめる。 また、課題で取り組んだ内容についても振り返りとめる。 ※講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。 予習・復習のバランスは各受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義です。 ・経営理論や戦略分析のフレーム（道具）を提供し、企業の現状を分析し、あるべき姿に導く的確な戦略立案能力（使い方）を身に着けていただきます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。 ・講義中にランダムで受講生の発言を呼びかけます。受講生の意見を全体に共有し、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。 ・LISを活用して、タイムリーに受講生の疑問・質問に答えられるように運用します。 ・オンラインツールを通じて提出したい課題について、次の講義の冒頭で、受講生の回答例を示しながら解説します。 ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用
 ・政府系金融機関での2年間の融資渉外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。 ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シニアがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考
 ・質問・疑問点等の問い合わせは講義資料に記載のE-mailアドレスまでご連絡ください。
